

N P O 法人鈴の音福祉会

第 1 期通常総会議案書

2009 年 6 月 20 日 フィオーレ

1. 開会のことば
2. 理事長挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 議事録署名人選出

第1号議案	2008年度事業報告
第2号議案	2008年度決算報告（別紙「決算報告書」）
第3号議案	2009年度事業計画案
第4号議案	2009年度収支予算案
第5号議案	NPO法人鈴の音福祉会役員選任について

6. その他
7. 閉会のことば

1 事業の成果

今年度の豊前市障害者地域生活支援センター「すずの家」では、相談員が交代し利用者からの戸惑いの声も上がったが、年間相談件数218件とますますの実績を残すことができた。他の委託事業もそれぞれ例年並みの実績を残しているが、各種講座への参加者が固定化気味の傾向があり、今後の課題となっている。

障害者の就労支援事業では、訓練生の一人が地元の企業に就職。現在も継続して働いている。また、訓練項目としてスタートした古紙のリサイクル事業及びバイオディーゼル燃料製造事業では、古紙や廃食油の提供者が順調に伸びた。特に、地元の小学4年生が他の学年にも呼びかけ、月に一度各家庭の廃食油を学校で回収してくれるようになったことで、保護者や地域の方々にも環境問題への関心が高まったようだ。

障害児の学童保育所は例年通り順調に運営が行われており、11名の障害児（養護学校9名、普通小学校2名）が毎日元気に通っている。

障害者スポーツでは、今年度は特に風船バレーの普及や練習に取り組み、近隣の大会や全国大会等にも出場し、近隣の大会では優勝することもできた。一方、地元の小学校の福祉体験学習にも積極的に参加し、児童にも風船バレーへの関心と理解を進めてきた。

2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
障害者や何らかのハンディキャップを持つ人に対する就労支援事業	一般企業等へ就職を希望する障害者等の就労訓練等の実施	通年	事務所 四季の家	2名 計270h/月	不特定多数	2,132
障害者自立支援法に定める地域生活支援事業	豊前市障害者地域生活支援センター「すずの家」管理運営	通年	事務所	2名 計270h/月	不特定多数	3,404
	豊前市障害者社会参加促進(点字・手話・陶芸教室等)	通年	事務所 市老人福祉センター	1名 計12h/月	市内在住障害者 延べ102名	1,911
	豊前市障害者生活支援(パソコン・料理教室等)	通年	事務所 市総合福祉センター	1名 計27h/月	市内在住障害者 延べ150名	2,693
	豊前市重度身体障害者移動支援	通年	事務所	1名 計30h/月	市内在住身体障害者 延べ56名	1,084
障害者自立支援法に定める相談支援事業	豊前市障害者相談支援	通年	事務所	1名 計160h/月	不特定多数	1,815

障害児学童保育所運営事業	豊前市・吉富町障害児学童保育所運営	通年	ひまわり学童保育所	7名 計630h/月	豊前市吉富町 障害児 延べ2,276名	11,198
地域通貨の普及・研究事業	今年度は実施していません					
障害者スポーツのイベント、企画、実施事業	車椅子テニスや風船バレーの定期開催	通年	勤労青少年ホーム	1名 計1h/月	市内在住者 述べ1,200名	0
自然環境保護に関する啓発事業及びリサイクル・リユースの促進事業	今年度は実施していません					

(1) 障害者や何らかのハンディキャップを持つ人に対する就労支援事業

08年度は、BDF(バイオセル燃料)に力を入れ、進めてきた。結果として、10,810の廃食油回収と製造につながった。特に下半期からは八屋小学校4年生の皆さんのおかげもあり、毎月平均1,000以上の回収につながった。

古紙の回収分別作業は、北京オリンピックが終わり古紙の卸単価が下がったところにリーマンショックによる世界経済の落ち込みの影響で、雑誌類はこちらが手数料を支払わなければ引き取ってもらえない状況に陥っている。そこに特定非営利活動法人プロジェクト・ボダイ理事長の栗焼理事長が、ご自信が経営する「いろは食肉店」で餃子1,000個分の売上げを「雑誌の支払い代金に充てて欲しい」20,000円を寄付。おかげで何とか雑誌の回収も継続できている。

抗菌消臭剤の製造販売に関しては、一般販売96本と噴霧作業が3店舗で、昨年と同様の実績となった。

訓練生が4月に就職し、その後新たな受け入れがないことから、四季の家は利用しなかった。

(2) 障害者自立支援法に定める地域生活支援事業

- ・ 豊前市障害者地域生活支援センター「すずの家」管理運営事業

インターネット開放事業では、地元の小中学生、成人、障害者延べ306人の方々が利用。

- ・ 豊前市障害者社会参加促進事業(点字・手話・陶芸教室等)
 - 点字教室(パソコン点訳)では、4名の方が受講。(全15回講座)
 - 手話教室(基礎課程)は、2名の方が受講。(全20回講座)
 - 陶芸教室は、2名の方が受講。(毎月2回/通年)
 - 生花教室は、1名の方が受講。(毎月1回/通年)
 - 点訳事業は、年間2,321頁を点訳。

- ・ 豊前市障害者生活支援事業(パソコン・料理教室等)

パソコン教室は、8教室56回講座/延べ11名が受講。

料理教室は、3教室(毎月3教室/通年)延べ139名が受講。

- ・ 豊前市重度身体障害者移動支援事業

車両移動型。利用者8名。年間運行回数262回。

- (3) 障害者自立支援法に定める相談支援事業
相談者実数 40 名。相談件数延べ 218 件。
内訳は、身体 30 名。知的 6 名。精神 4 名。
- (4) 障害児学童保育所運営事業
児童数は 4 月当初は 12 名だったが、転校等のため 3 月末では 9 名となった。
- (5) 地域通貨の普及・研究事業
特定非営利活動法人プロジェクト・ボダイが進めている地域通貨「もやい」を、
廃食油回収時に使用している（1 = 1 枚/2 円相当）が、このもやいシールの活用
方法をボダイと一緒に考え、市民へ普及する予定であったが、具体的な活用方法
を提案できなかった。
- (6) 障害者スポーツのイベント、企画、実施事業
今年度は、ふうせんバレーを中心にその普及を目指した。
その結果、ふうせんバレーボールクラブ「ポン太」を組織化。
大会参加は、「第 3 回生き生きジュニアふうせんバレーボール大会」（宇佐市）
「第 19 回全国ふうせんバレーボール大会」（北九州市）
「第 4 回生き生きジュニアふうせんバレーボール大会」（宇佐市）
練習は、毎週月曜に勤労青少年ホーム（ヤルディぶぜん）で開催。
啓発活動としては、宇島小学校、八屋中学校の福祉体験学習に参加。実際に児
童と一緒にふうせんバレーを行った。また、福祉フェアにおいて金魚すくいを出
店した。
- (7) 自然環境保護に関する啓発事業及びリサイクル・リユースの促進事業
BDF を中心に、CO2 削減に向けた取組を広めるため、小学校等への啓発活動を取
り組む予定であったが、単独事業としては実施できなかった。
小学 4 年生の福祉体験学習で来所した児童へは、就労支援事業紹介時に BDF 製
造の説明を行っている。

第2号議案

別紙「決算報告書」参照
別紙「監査報告書」参照

1. 事業方針

2003年4月に支援費制度が始まり、2006年4月には障害者自立支援法に移行。この自立支援法も開始から3年が経過し、様々な問題点が顕著化され自己負担額の上限の見直し等、対処療法式の見直しが繰り返されて来ました。

しかし、「施設から地域へ」の合言葉の基、「脱施設」を目指した施策が試されてはいますが、地域住民への説明や学習会等の啓発活動がなされていない状況では、施設を出たとしても行き場所がない障害者は、引き続き施設に居るしかないのが現状です。

今年度は、「制度に振り回された6年」を反省材料とし、地域住民への理解を広め、より具体的な住民相互扶助を原則に掲げ、障害者を含めた小地域福祉の充実及びネットワークの構築に努めます。

2. 事業計画

(1) 障害者や何らかのハンディキャップを持つ人に対する就労支援事業

福岡県障害者就労・生活支援センターじゃんぷや、就労移行事業所みらい等と連携を取り、受け入れ先の開拓や就労訓練の充実を図ります。

また、引き続き訓練科目であるBDF製造や古紙の回収分別作業を行います。

(2) 障害者自立支援法に定める地域生活支援事業（受託事業）

豊前市障害者地域生活支援センター「すずの家」管理運営事業

地域に開かれたセンターを目指し、引き続きインターネットの無料開放をはじめ、福祉体験学習の受け入れや各種講座を開催していきます。

豊前市障害者社会参加促進事業（点字・手話・陶芸教室等）

点字教室・手話教室は例年通り開催してまいります。

点訳事業も継続し、視力障害者の方々のニーズに合わせ点訳を進めるとともに、豊前市立図書館とも連携を図り点字図書の実用性を図ります。

障害者陶芸教室も継続し、受講生を増やすよう努力します。

豊前市障害者生活支援事業（パソコン・料理教室等）

障害者パソコン教室では、入門課程からレベルアップ講座まで、受講生のニーズに合わせたきめ細かい対応を行ってまいります。

障害者料理教室は、引き続き受講生の希望に合わせたメニューやレシピでの調理方法の指導や、障害に応じた調理器具の紹介等も行なってまいります。

(3) 障害者自立支援法に定める相談支援事業（受託事業）

今年度より正式にスタートした豊築自立支援協議会の幹事を務め、毎月の幹事会においてケア会議の報告、困難事例の検討、専門委員会の設置など一事業所では難しかった対応がネットワーク化されたことにより、更なる充実が図れるようになりました。

そこで、今年度は相談者一人ひとりのニーズを漏れなく拾い集め、他の事業所との連携を図り、すべての相談に対応していきます。

(4) 障害児学童保育所運営事業（受託事業）

現在養護学校高等部は直方市にあり、豊前市、吉富町の子供たちは寮生活を送っています。ところが、来年度より築城養護学校に高等部が設立されることになり、自宅から通う児童が誕生します。このことに合わせ、学童保育所での高等部生徒の受け入れを保護者と一緒に豊前市及び吉富町に働きかけます。

(5) 地域通貨の普及・研究事業

特定非営利活動法人プロジェクト・ボダイが発行している「もやいシール」をすずの家のボランティア活動に活用するためのシステムを研究します。

(6) 障害者スポーツのイベント、企画、実施事業

今年度も、ふうせんバレーボールを中心に障害者スポーツを市民に広めていきます。

(7) 自然環境保護に関する啓発事業及びリサイクル・リユースの促進事業

就労訓練科目であるバイオディーゼル燃料の普及によるCO₂削減や、古紙の回収・分別事業によるリサイクル事業を通し、豊前市の環境問題を市民に広める為の活動を行います。

第4号議案

2009年度 収支予算

2009年4月1日から2010年3月31日まで

【収入の部】

NPO法人鈴の音福祉社会

科 目	金 額		備 考
会費・入会金収入		50,000	10人×5,000円
寄付金収入		100,000	
助成金収入		200,000	ボダイほか
事業収入			
抗菌消臭剤製造	400,000		
古紙回収分別	120,000		
BDF製造	1,000,000	1,520,000	
受託事業収入			
センター運営事業	3,400,000		
障害者社会参加促進事業	1,909,000		
障害者移動支援事業	895,200		
障害者相談支援事業	1,800,000		
障害者生活訓練事業	2,680,000		
障害児学童保育事業	11,111,000	21,795,200	
雑収入		30,000	
前期繰越差額		24,489	
収入合計		23,670,711	

【支出の部】

科 目	金 額		備 考
給与手当		14,000,000	職員数22名
法手福利費		800,000	社会保険料ほか
福利厚生費		300,000	通勤手当ほか
総会費		100,000	定時総会費
材料仕入		500,000	メタノール、薬剤費ほか
委託費		3,200,000	講師謝金
水道光熱費		1,000,000	すずの家、学童、四季の家
車両関連費		280,000	燃料代、修理代ほか
事務用消耗品費		350,000	事務用品代
消耗品費		300,000	各種教室の消耗品ほか
賃借料		700,000	リース料ほか
支払保険料		410,000	任意保険、学童保険ほか
租税公課		50,000	印紙代、法人税ほか
接待交際費		20,000	弔電ほか
旅費交通費		150,000	出張旅費
通信費		350,000	切手代、電話代、プロバイダー料ほか
支払手数料		15,000	郵便為替手数料ほか
諸会費		5,000	商工会議所
図書教育費		100,000	新聞代ほか
雑費		1,000,000	セコム、PC保守料、会場使用料ほか
予備費		40,711	
支出合計		23,670,711	

第5号議案

役員専任について

定款第4章、第16条に基づく役員（理事及び監事）任期満了に伴い、新役員の選任を行います。

新役員

理事（理事長）	亀井國弘	再任
理事（副理事長）	高野俊二	再任
理事（副理事長）	渡邊節子	再任
理事	東淳之	再任
監事	松本菜穂子	再任
監事	寺中憲二	再任

新役員の任期は2009年6月1日より2011年5月31日まで。